

令和2年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，2020年度，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度の委員数14名で，京都市内施設を開催場所とし，1回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第61回研究会（令和2年12月12日 於：KKR 京都くに荘） ①極低温ターボポンプ軸受の発熱メカニズムに関する研究（宇宙航空研究開発機構 角銅洋実，高田仁志），②汎用FEMソフト(COMSOL)による弾性流体潤滑解析とすべり軸受設計への応用（名古屋工業大学 前川覚，糸魚川文広），③原子間力顕微鏡を利用した各種境界潤滑層のナノトライボロジー特性の評価（京都大学 山下直輝，平山朋子）．

例年，研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっているが，本年度はコロナ禍により懇親会の開催を見送った．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>